

経営学部4年 田口佳佑

留学先:ウッチ大学(ポーランド)
留学期間:2023年9月~2024年2月

ポーランド・ウッチ大学での留学を終えて

皆さんこんにちは。

経営学部4年の田口佳佑と申します。私はポーランド・ウッチ大学に2023年9月から約5か月間の交換留学をし、2月に帰国しました。このレポートでは私が留学するに至った経緯やウッチでの留學生活などについて紹介します。

ウッチはポーランド中央部に位置し、ワルシャワ、クラクフに次ぐ第3の都市です。ポーランド最大の工業都市であり、繊維工業やポーランド映画産業の中心地として知られています。そのような場所に位置するウッチ大学はウッチの中でも比較的中心部に位置し、市内にキャンパスや関連施設が点在しています。またヨーロッパをはじめとする多くの国々から留学生を受け入れるなど国際色豊かな大学です。



ウッチ 街並み

私は当初、海外や留学に対するイメージは「行けばいいな」「1回は旅行してみたいな」くらいの軽い考えしかありませんでした。実際、大学入学当初からコロナ禍であったことで海外に行くことに対する現実味がありませんでした。しかし、大学在学中に様々な経験をし、国外での生活や英会話の上達が今後の人生においてプラスに作用すると考え、またそれができる数少ないチャンスがこの大学在学中の4年間であるという考えにたどり着きました。そこで、大学4年の最後の半年で留学に行くという決断をしました。



経営学部 キャンパス

実際、今回の留学を通して多くの学びを得ることができました。

まず、当たり前ですが語学力の向上です。私自身、努力が足りず目標とするレベルまでには至りませんでした。それでも留学前よりは確実に上達しましたし、何より英語学習に対するモチベーションを高く保つことができます。また、異文化理解の面でもやはり多くを学ぶことができましたと感じます。日本との違いや他の国から見る日本を知ることによって、他の国の歴史的な背景を知るきっかけになるなど、さらなる学びへつながることも数多くありました。

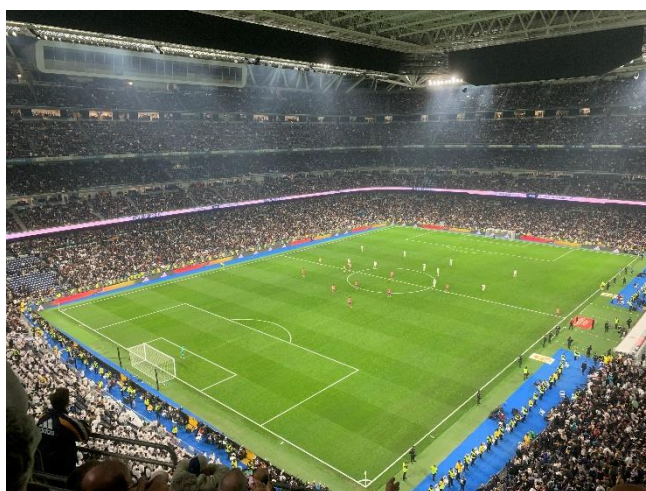
もちろん、この約半年の学びの全てをここに書き出すことはできませんが、これを通して自分の中で変わったと感ずることがあります。

それは様々な面で視野が広くなり、より柔軟に物事をとらえるようになったということです。留学中、様々な国籍の学生と接し、特に文化が全く違う欧米圏の学生とはいろいろな面で違いを感じることもよくありました。そのような経験を通して自分との違いを理解し尊重することで、自分の中にも多様な考えが生まれ、受け入れることができるようになりました。これは語学力以上に留学をするメリットであると感じ、自分自身の幅を広げることができた実感しています。



寮 外観

ここまで少し硬い話になりましたが、もちろん楽しいこともたくさんありました。特に私は目的の一つにヨーロッパ各国でのサッカー観戦があり、サッカーの試合を、多く見ることができました。EU圏では格安航空や長距離バスの活用により、比較的安価で旅行することが可能で、多くの国に出かけることができました。また、もしEU圏に長期留学するのであればフランスへの旅行をお勧めします。ルーヴル美術館をはじめとする多くの観光名所において無料入場できたり割引を受けたりすることができます。また、ポーランド国内においてもアウシュヴィッツ収容所やマルボルク城などの世界遺産を始め、観光地がたくさんあり、近場でも十分に楽しむことができます。



マドリード サッカー観戦



パリ 風景



アウシュヴィッツ収容所



マルボルク城

以上のように、留学は多くの学びを得られ、今後の人生を豊かにすることのできるものであると思います。しかし、留学に対する不安を感じる人もたくさんいるでしょう。ただ、もし条件的に問題ないのであれば、私は一度、特に学生時代に留学に行くべきだと感じます。時間的な余裕以外にも学生時代にこれまでとは全く異なる場所に身を置き生活するという経験は非常に有意義なことです。一度覚悟を決めてしまえばその後は成るようになります。是非少しずつでも、まずは一歩動きだしてみたいはいかがでしょうか。



ウッチ 夕焼け風景